

監査・保証判断基準 プロジェクト報告

ドラッカーの遺言の事後検証

報告者

公認会計士、CISA、
TOGAF9認定アーキテクト
松尾 明

開催回数と内容

- 2015年3月 準備会合2回
- 2015年4月 第1回会合
- 2015年5月 第2回会合
- 原則毎月第二水曜日 18時半より
法政大学市ヶ谷経営専門職大学院(新一口坂校舎4階)

2015年の活動計画

- ドラッカーの「テクノロジストの条件」
（ダイヤモンド社、2005年9月、上田淳生編訳）
を基本書とし
- 事後検証を行う

- これ以降の講演の内容の詳細確認は、会員の方は、学会ホームページ上の
小生研究ノート「ドラッカーの遺言の事後検証」でご覧ください

事後検証の5つのポイント (プロローグ、エピローグより)

- 1 哲学がない
- 2 テクノロジーモニタリングが必要
- 3 外部環境情報が利用されていない
- 4 知識情報伝達技術が変化している(MOOC)
- 5 倫理観

(世の中に与える影響について
すべて自分に責任がある)

本日の紹介は テクノロジーモニタリング

ドラッカーのコメント

- 何が必要か、テクノロジーモニタリングである。
- モニタリング、つまり監視していくことである。
- 新技術の予測はどうしても賭けになる。
- 間違った技術を推奨したり、最も恩恵をもたらす技術を軽視する危険がある。
- ゆえに発展途上の技術についてはモニタリングが必要となる。
- 観察、評価、判定をしていかなければならない、
- これこそがマネジメントの責任である。

技術はどこに行くのか？

- フォースがひとつの答

「ありとあらゆる生命体から発するエネルギーの場」

テモシー・ザーン

(「スター・ウォーズ外宇宙航行計画」、2006年7月、
ソニーマガジン)

- パラリンピックに向けた介護ロボット

脳信号を受信し、手足に伝えるウェアブル・コンピュータ)

未来を支える 5つのフォース

1. モバイル
2. ソーシャルメディア
3. ビッグデータ
4. センサー
5. 位置情報

(「コンテクストの時代」、ロバート・スコープル、ミエル・ステエル著

滑川海彦、高橋信夫訳、日経BP社、2014年9月)

モニタリングの範囲

- これらの5つフォーカスは必須
- 他は必要ないのか？

テクノロジーの変化の速さ

- 速すぎるのでモニタリングできない？

- 従来の方則

 - ムーアの法則

フォースの世界では？

4分の1スケールリング

10/10則、1/1則

1/1 則

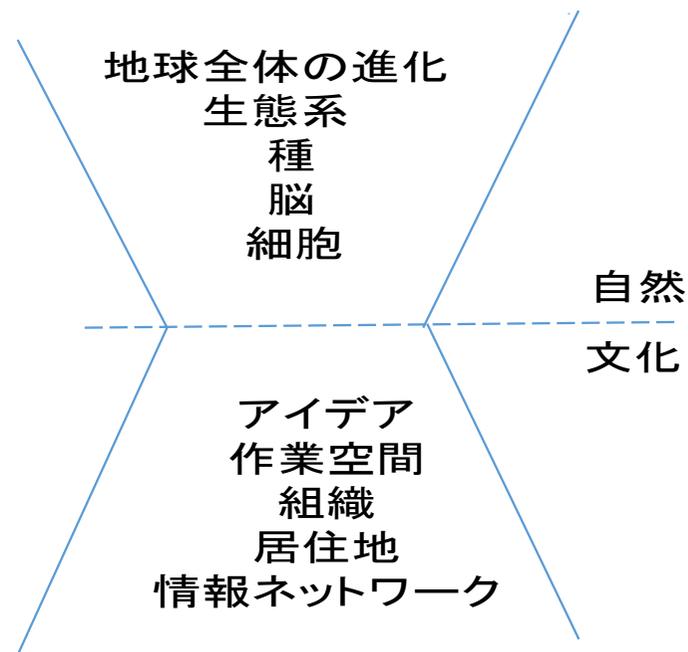
- インフラの整備を前提とするイノベーションは速く
加速度をあげている
- インフラ
 - 技術的 ネット、ソフト、データ、ハード
 - 人的 テクノロジスト、利用者
 - 社会的 法的、文化的、教育
- 具体例
 - GPS、Twitter、Youtube、Facebook

イノベーションが答え？

- ドラッカーは、
 - 自然領域
 - 社会領域のイノベーションが必要としている
-
- ロングズームが広い視点を提供

ロングズーム

(「イノベーションのアイデアを生み出す7つの法則」スティーブ・ジョンソン著、松浦俊輔訳、2013年8月、日経BP社 26頁の図を簡略化)



イノベーションを起こすには？

- 目標の共有が課題
- ビジネスプロセスの共有が課題
- アーキテクチャーの共有が課題
- テクノロジーの共有が課題

今後の「監査・保証判断基準」に向けた 検討

- モバイル決済、暗号通貨
- クラウド
- データガバナンス
- 医療画像データ共有
- コンピュータ利用監査
- データモデル、データインテグリティ

ご清聴ありがとうございます。

- コメント、ご質問は、

akimatsuo@outlook.com に